

交換留学(派遣) 帰国報告書

あなたの情報(本報告書を閲覧する際には、あなたの氏名、学籍番号、メールアドレスは公開されません)	
留学先大学:	ニューヨーク市立大学クイーンズカレッジ
留学先での所属学部・研究科:	political science
留学先での在籍身分:	undergraduate
留学期間:	2018年 8月 27日～ 2018年 12月 21日
神戸大学での所属学部/研究科:	国際文化学部
学年(出発時):	4年
帰国日:	2019/1/13
本報告書記入日:	2019/8/8



1. 留学先大学について

1-1	学年開始月日:	8月 27日	
	学年終了月日:	12月 21日	
	学期:	①	8月 27日～ 12月 21日
		②	月 日～ 月 日
③		月 日～ 月 日	
④		月 日～ 月 日	
1-2	留学先大学の特長、人気のある分野等について記入ください。	ニューヨーク郊外に位置し、120か国以上の海外から学生を受け入れる多様性ある大学。学部は芸術・人文学、教育、数学・自然科学、社会科学の4分野に分かれている。	
1-3	留学先大学のサポートについて記入ください。		
	語学面でのサポート:	留学生向けの英語サポートがあったが、時間が合わなかったため利用していない。	
	勉学面でのサポート:	特になし	
	精神面でのサポート:	Mohamedさんをはじめとする、留学生オフィスのスタッフがトラブル時等に親身に対応してくださり、とても心強かった。	
	住居・生活面でのサポート:	特になし	
	課外活動のサポート:	Club dayが学期ごとに開催され、各クラブがブースを出していたためどのようなクラブがあるのかわかることができた。	
1-4	近況報告書提出後に、履修した授業について記入してください。	クリックで別シートへ	
1-5	神戸大学の所属学部・研究科にて「単位認定」を申請する予定ですか?	いいえ	

2. 住居について

2-1	住居についてアドバイスを含め自由に記入してください。(気を付けること等)	寮費が高額であったため、JCSAという斡旋会社を通してシェアハウスを探した。学期が始まる一週間ほど前に渡航し、民泊を利用しながら家を探したが、月の中旬であったこともありあまり選択肢は多くなかった。結局家からは1時間ほど電車とバスを乗り継いで大学まで通っていた。9月からの入居を考え、時間をかけて住宅を探してもよかったかもしれないと思うが、情報源も少なく精神的余裕もなかったため難しかった。
-----	--------------------------------------	--

3. 生活について

3-1	インターネット接続環境について	住宅、学校には整っている。
	住居内のインターネット接続可否、プロバイダー、料金等について記入してください。	借りていた部屋がインターネット接続料金込みの値段だった
	大学内のインターネット接続可否(wi-fi)等について記入してください。	可能であるがとても弱い
3-2	医療について 留学期間に病院に通いましたか。医療費等について記入してください。また、健康管理や衛生面について特に注意すべき点について教えてください。	通っていない。留学期間に体調を崩しドラッグストアで薬を購入したが、購入の際に身分証明書が必要である点には要注意。
3-3	銀行口座等について 留学先でお金を引き出す為にどんな準備・手続きをしましたか。(現地口座開設、キャッシュパスポート等)	キャッシュパスポートを利用した

4. 経費について(奨学金、留学費用)

4-1	奨学金を受給していた場合、奨学金名(財団名等):	学研災付帯海外留学保険(「付帯海学」)(神戸大学指定の保険)
	支給額(円/月):	10万円
	その他(渡航費等の支給):	なし
4-2	留学期間を通して必要だった費用を記入してください。(概算で結構ですので、円価で記入してください。)	
	航空運賃:	20万円
	住居費:	(月額) 9万5000円 × (留学月数) 5ヵ月 = 475,000円
	食費:	(月額) 5万円 × (留学月数) 5ヵ月 = 25万円
	保険料:	7万5320円
	その他:	
	合計(留学期間全体の費用):	100万320円

5. 異文化体験について		
5-1	留学先の文化・社会(習慣の違い等)について記入してください。	月並みな表現だが、文化・言語・人種どの側面をとっても多様。それらが混ざり合っているというよりも、それぞれがコミュニティを保ったまま共存しているという印象。
	大学外の現地の人々と、どの程度コンタクトを持ちましたか。	ルームメイトが年配の現地の方であり、その方のお友達とご飯に行ったり誕生日を祝っていただいたりした。
	課外活動(ボランティア、インターンシップ、アルバイト等)はしましたか。	日本文化クラブに参加し、日本に興味のある学生と交流していた。また、日本語のクラスにも参加させていただいた。
	留学先の「町」についてコメントがあれば、記入してください。(安全性、外国人への態度等)	治安は当初心配していたほど悪くないと感じた。地域によって町の様相はがらっと変わるが、危険そうなどころには立ち寄らないなど最低限のことを注意していれば大丈夫ではないかと思う。
6. 就職活動について		
6-1	留学期間中に就職活動をしましたか。就職活動をした場合、どんなことをしたか教えてください。	ポストンキャリアフォーラムに参加した。8月ごろから準備を行い、11月の本番に向けてスカイプでの面接を繰り返した。その際にエントリーした企業に内定をいただき、入社予定。
7. アドバイス、振り返り		
7-1	現地で参考となった留学先国の情報(出版物、ホームページ)を記入してください。	特になし
7-2	現地では手に入らない物、日本から持参すると良いと思われるものがあれば、記入してください。	電子辞書、日本食、風邪薬。 受講予定であった授業内容と被る専門書を持参したのも役に立った。
7-3	留学することによって得られたことについて記入してください。(語学力の向上、キャリアパスの明確化、異文化理解等)	政治学のリサーチスキルの授業において、留学前に行っていた専門分野における研究を発展させ、論文の一つ完成させた。教授から何度もフィードバックをいただき、卒論のベースとなる非常に有意義な勉強ができた。 また、自分自身と向き合う時間が多くあったことにより、自分についての理解も深まり、就職活動にも繋がったと感じている。
	語学力について、差し支えの無い範囲で、留学前と帰国後の客観的な指標を教えてください。	留学前:() 点 → 帰国後:(未受験) 点
7-4	振り返ってみて、何が最大のトラブルでしたか。	特になし
7-5	留学前、留学期間を通じて、神戸大学のあなたへのサポートは適切でしたか。神戸大学への要望があれば記入してください。	トラブル時も素早くメールで対応してくださり、親切にいただいた。
7-6	本留学プログラムを後輩に薦めますか。薦める場合・薦めない場合ともに、理由を記入してください。	勧める。 意識の高い学生たちと授業を受けることができたうえ、留学生オフィスが定期的に留学生向けに開催してくれるイベント(ランチクルーズやセントラルパーク遠足、ブロードウェイ鑑賞など)を通して他国からの留学生とも交流しながらニューヨークの街を知ることができ、貴重な経験であったと感じているため。
7-7	留学全体を振り返って、以下の質問に答えてください。	(5段階評価、5が最も高い評価、1が最も低い評価)
	・留学先大学の授業の「質」(内容、レベル等)に満足しましたか	4
	・留学先大学の学生サービスに満足しましたか	4
	・留学先の住み心地(安全性等)に満足しましたか	3
	・住居の「質」(広さ、料金等)に満足しましたか	2
	・全体として留学に係る費用は安かったと思い、満足しましたか	2
	・神戸大学の留学に係るサポートに満足しましたか	4
・留学全体の総合的な評価	4	

8. その他感想、後輩へのメッセージ等を自由に記載してください。(800字～)

自分自身を改めて見つめ直すきっかけになった貴重な半年間だった。

これまで部活と勉強のみの大学生活を送ってきていて外の世界を見ていないという自覚があり、自分の価値観や視野を広げたいという思いと、やっぱりしんどいところには学び・成長はないという自分の考えがあり、comfort zoneを出た先にどのような学びがあるのか見てみたいという思いで留学を決意した。

その結果、言語面でももちろん苦勞したがそれよりも、全く違う世界を見て自分はどうかありたいのか/どう生きていきたいのかを考え続けて苦しみ続けた半年間であったように思う。その中で、当初想像していた以上の学びが得られたと感じている。

日本ではみんな同じ言語を話して、同じ文化や習慣を共有して狭い世界の基準に照らし合わせて行動を選択しているが、NYは街でも大学でも、みんな自分の好きなようにふるまっていて誰かに合わすという概念がない、合わせるルールも基準もないように見えた。そういった“文化”や“習慣”など自分が今まで囚われてきたものがなくなった時に、私はどう生きたいかわからなくなってしまったし、心からやりたいことは何もないように感じ、やらなければいけない目の前のことを完璧にこなすだけで生きてきてしまったことに気づいた。

その中で得た一つの学びは、物事には裏表があるだけであり、良い悪いはないということだった。例えば、NYでは急に地下鉄内でポールダンスが始まったり、接客中にお菓子を食べたり踊り始めたり、皆が自由に生きており周りを気にして生きていると言われる日本とは対照的であったが、行動の選択基準が自分であることは無秩序と紙一重であり、そこは自分にとっては居心地が悪い空間だった。これは人の性格についても同じで、例えば自分の自己肯定感が低い裏には、自責性が強い、完璧主義者、という側面があった。常に上を見てレベル高い人の中に身を置き、努力し続けながら生きてきたからこそさだという気づきは、自分自身を認めることにつながった。

また、改めて自分がどれだけの人に支えられているかについても実感した。

自分ひとりで完結することなんてしてしている、留学自体も一人で決断して一人でやりたい研究をやっていただけのように見えて、振り返ってみると実際は人に支えられていた。留学を終え、同じような壁を経験していた先輩や後輩たちと考えをぶつけ合って新たな気づきがあったり、自分の考えが深まったり、人は相互関係の中で生きてるのだということを改めて感じた。自分ひとりの喜びを追求することで得られる成長には限界があるのではと思うようになり、切磋琢磨できる関係を人と築いていきたいし、支えてくれる人を支えられる人間でありたいという結論に至った。

上記二点は自分自身のファーストキャリアに対する選択にも大きくかわる重要な学びであったように思う。

また、上でも少し触れたが、3年後期から始めた研究もブラッシュアップでき一つ論文を書ききることができたので、学業面に関しても得られるものは大きかったと思っている。この留学で得た知識を卒論に活かしていきたい。